




【基本施策の目的】

将来にわたって、健全財政を維持します。

【基本施策の今後の優先度】

中 基本施策の指標「経常収支比率」は、8割超で横ばい推移しており比較的良好である。今後とも、将来にわたって健全財政を維持するための取組を、現状ではしっかりと継続する予定であることや、同一分野内のほかの基本施策との比較の結果、「中」と判断した。

【指標の分析と今後の対応】

指標	単位	区分	基準値	H26度	H27度	H28度	方向性との整合性とその要因、実績の増減の要因、今後の見通し(予測)	今後の対応	
経常収支比率	%	実績	85.2	84.4	81.9	82.4	指標の悪化については、算定式の分母である経常一般財源収入(地方消費税交付金など)の減少及び分子である経常経費充当一般財源のうち公債費(過去の市債の償還期限終了による減よりも新たに元金償還が開始したことによる増が大きい)や補助費等(小牧岩倉衛生組合運営費負担金の増)の増加によるものである。今後についても引き続き少子高齢化に伴う社会保障費などの扶助費が増高することが見込まれることから注視していく必要がある。	歳入面においては、経常一般財源収入である市税の収納率向上をはじめとした歳入の確保に取り組むとともに、歳出面においては、事業の選択と集中に行政評価を効果的に活用し、既存事業の見直しなどを進め、経費の節減を図る。	
		目指す方向性							
展開方向	指標	単位	区分	基準値	H26度	H27度	H28度	方向性との整合性とその要因、実績の増減の要因、今後の見通し(予測)	事務事業等の見直しの内容
1 歳入確保の取組みを強化します	市税収納率	%	実績	93.9	95.3	95.5	95.8	電話での催告や文書催告を行い、現年度課税分の収納率は前年度と変わらなかったものの滞納繰越分は前年度を上回ったため、収納率が基準値を上回った。	収納率の維持向上を図るため、引き続き納付環境の改善に努めていく。
			目指す方向性						
2 歳出の削減と合理化を推進します	平成25年度当初予算と比べた経常的経費の削減額	千円	実績	0	21,017 (1%削減)	21,401 (1%削減)	20,910 (1%削減)	当初予算編成にあたり、経常費の一律1%シーリングを実施した。今後、行政評価による削減効果が期待できるが、併せて削減効果のある手法については、検討を進める必要がある。	当初予算編成にあたり、経常費の一律1%シーリングを実施してきたが、これは各担当課が自主的に取り組むものではなかった。平成29年度に実施する行政評価では、これまで以上に担当課自らが、事業の選択と集中に取組み、経費の削減を図ることが期待される。
			目指す方向性						

展開方向	指標	単位	区分	基準値	H26度	H27度	H28度	方向性との整合性とその要因、実績の増減の要因、今後の見直し(予測)	事務事業等の見直しの内容
3 健全で計画的な財政運営を推進します	実質公債費比率	%	実績	0.5	0.1	0.0	0.0	公債費が若干増え、分母の標準財政規模も減少したため、3カ年平均での実績は横ばいであるが、単年度では若干悪化している。 今後、大型公共施設の建設を控えているが、積立基金の活用などにより過度な借入は行わない予定であるため、健全な比率を維持できるものと考えている。	引き続き、現在の展開方向に沿った取組みをしていく。
			目指す方向性	2.5%以内					

経常事業	削減に関する具体的な考え方	展開方向1	印刷製本費の見直しを検討する中で、今まで業者へ発注していた印刷物のうち簡易なものについては、消耗品費で用紙を購入し庁舎内で印刷をすることで、経費の削減や成果品の完成期間の短縮ができる。
		展開方向2	現状の取組を引き続きしっかりと進めていく。
		展開方向3	現状の取組を引き続きしっかりと進めていく。